

いのち
生命の水うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2022年秋

151



特集 スリランカのエconomic危機



● 主な目次 ●

「巻頭言」命と心の大切さ家族で話し合い	02
特集：スリランカの経済危機	
超インフレ「暮らせない」	04～06
フィリピン台風被災地支援報告	06
馬と生きるネパールの村にエール	07
ネパール「朝日読者の森」の20年	08・09
異国からウクライナの平和祈る	10・11
インド、コスモニケタン学園の	
サトウキビ・プロジェクト	12・13
途上国のごみの実情と国際環境協力	
—JAFSのセミナーから	14・15
「井戸ができた村」	16～19
「JAFSプラザ」=国内の活動	20・21
「JAFS愛いつまでも!!」43年目の集い／賛美歌聴いて夏の夕礼拝／外国人と仲良く暮らすには…／醤油蔵に響くアジアの音と踊り／温泉を楽しみアジアを応援	
イベントカレンダー	22・23
新入会員紹介・領収報告	24・25
「活躍するアジア人」	26
「環境コラム」	27

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2022年3月現在、井戸建設（累計2211基）や植林（累計258万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

命と心の大切さ 家族で話し合い



木 泰輔
アジア協会アジア友の会
理事

私には妻と5人の子供がいます。家は代々商いを営み、メ木という姓は、和歌山県下津市のメ木岬からとられたと聞いています。祖母の姓が嶋氏で、かつては、目の前に淡路島が見えるこの港の網元をしていました。約7km先には1文字違いの鈴木家の発祥の藤白神社があります。

昨年6月、父・督泰を87歳で天に送り、一家の大黒柱を失う経験をしました。日々、仕事での重要な立場と父親の役目を深く考える様々な場面に直面します。自分の非力さを感じ、真に難有の体験から「有難う」と感じる日々です。

若者に人気のあるGreenの曲「遙か」に「本当の強さ 本当の自由 本当の愛と本当の優しさ わからないまま進めないから『自分探す』と心に決めた」という歌詞があります。高校生の頃の私はまさに、悶々として心が定まらず、彷徨し、誰にも言えぬ辛く虚しい人生を送りました。後にイギリスでキリストを知り、生きる意味と死ぬ意味に明確な揺るがない答えを出せたことは、私の人生にとって最大のプレゼントでした。

19歳の時、映画と音楽大好きが高じて「世界に行きたい、自分探しを

知る「心」を問うという課題を、社会の最小単位の家族で話し合い、明確に答えを得ることが必要ではないかと考えさせられます。

権利と義務を両立させること。権利を求める前に、人としての義務を果たすこと。愛・喜び・平安・寛容・親切・善意・誠実・柔和・自制とは何か、人生の避けては通れない普遍的な問題点に、自立した人として向き合い、真摯に取り組むこと……。

良識あるJAFSの諸先輩から、人

として「日本人とは？」の定義を再構築できる知恵をいただき、同世代とは人間と社会について、青年たちとは命について、真心から他者を尊敬しつつ話し合いたいと思います。

偏差値一辺倒をもたらしした戦後教育の問題点は教室でのいじめによる自殺者が後を絶たないことにも表れています。2018年現在、日本の子供の7人に1人が貧困というデータもあります。先進国で最も高い水準です。アジアの貧困や諸問題に立ち向かうとともに、もう一度、日本の大切な子供たち、家族の問題にも心を向けるべきだと確信します。

18年にJAFS監事である(株)宝屋の出口社長のお誘いを受け、JAFSに入会しました。身近にある小さな大切な問題から、解決に向け、誠実に取り組みたいと願っています。

● プロフィール ●

しめぎ・たいすけ 1967年、大阪府生まれ。2006年、エーゼル(株)代表取締役社長。娘の病気を通じて、障がい者と共に仕事をする使命に目覚め、14年5月、自らが代表を務めるノアノアグループを設立。地域社会に根差しながらアジアや諸外国の福祉に貢献しようと呼びかけて22年5月、JAFSなにも南地区会主催で「心」のメッセージを発信するノアノアフエスタを開始。20年、JAFS理事就任。

- JAFS 会員綱領**
- 私たちは、世界の平和と人間の基本的な人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。
- かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。
- 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
 - 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
 - 一、地球の自然環境を大切に守ります。
 - 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
 - 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。
- 以上



外貨不足から来る激しいインフレ、食料や燃料の不足、長時間の停電……インド洋の真珠・スリランカは今、独立以来最悪の政治・経済危機に見舞われ、多くの国民が生活を脅かされています。4月に政府が事実上の債務不履行を宣言。7月には反政府デモが激化して大統領と首相が辞任に追い込まれましたが、解決の糸口はまだ見えていません。現地の提携団体からJAFSに、窮状を訴える報告が届きました。

サルボダヤ副代表

ラビンドラ・カンダゲ

パドゥツラ県タルディナ村に住むウベクシカ・サンジワニ・ラスナヤケさん（写真左）は30歳で2人の子どもがいます。1人は学校に通っており、1人は就学前です。夫を亡くして母と兄家族が住む家に身を寄せています。定期的な収入がなく、政府の福祉補助金から月2500スリランカルートのサムルデイと呼ばれる支援を受けていますが、決して豊かとはいえない兄家族に経済的に依存せざるをえません。



で私たちの生活に必要な多くの物が不当に値上がりし続けています。今年初めには、1米ドルは200ルティでしたが、今では365ルティになりました。

輸入に頼っている食料品は、以前と比べものにならないほど値上がりしています。コメは国内でも栽培していますが、1kgあたり120ルティだったのが250ルティに上がりました。砂糖は1kg160ルティが380ルティ、ダル（豆）は1kg230ルティが640ルティ、パン400gは65ルティから200ルティへと、毎日の生活に必要なものが上がり続けているのです。8月現在、危機前と比べたスリランカのインフレ率は60%を超え、食料のインフレ率は90%を超えています。

エネルギー不足も深刻です。ガソリンは1リットルあたり107ルティが440ルティに上がりました。供給量も極端に少なく、ガソリンスタンドには連日、長蛇の列ができています。炎天下で何日も並ばなければならず、並んでいる間に亡くなってしまったという悲しいニュースがいくつもありました。交通手段が確保できず、通勤や通学に支障が出ています。5〜10kmの距離を歩いて往復している人もいますが、毎日では大きな負担となっています。

医療従事者や医療用品がそろわず、機能できない病院も出ています。停電

ガソリンを求めるバイクと車が、道の彼方まで列を作ったスリランカ、西部州カルタラ地区ホラナ

ガソリン求め車の列

家の横に布を張ったスペースを作り、暮らしています。子どもは学費のかららない公立学校に通わせており、勉強が大好きで成績も優秀ですが、必要な教材や学用品をそろえてあげることができません。小さな子どもを抱えては、外に出て仕事をすることもできません。最近の物価高は、生活をより悪い状況に追い込んでいます。ラスナヤケさんは幸いにも裁縫が上手で、衣類や手工芸品をつくるのが得意です。彼女の願いは切実です。「私は経済的にだれかに依存するのではなく、毎月の恒久的な収入源を得て、子どもたちが教育を受けられ、十分な食事をとり安心して暮らせるよう、努めたいのです」

食料は2倍近くに

スリランカは今、独立以来最大の経済危機に瀕しています。この半年の間も日常的で、必要最低限の暮らしをするには、4人家族で少なくとも6万ルティかかります。多くの家庭の月収は3万〜4万ルティです。支出を減らし、食料の量も減らしていますが、先が見えない生活に皆、疲れ切っています。

スリランカの大きな収入源は観光産業でした。8つの世界遺産があり、1年を通して世界中から多くの観光客が訪れ、多くのスリランカ人がガイドやレストラン、土産物屋、運転手などで生計を立てていました。新型コロナウイルス感染症や政治・経済危機が深刻になってからは、訪れる人が95%も減少しました。今、観光地には誰もいません。一番影響を受けているのが子どもと女性です。サルボダヤが活動している貧しい農村では、子どもの栄養失調が問題となっています。ヌワエリヤ地区で65%、アンパラー地区では80%の子が深刻な状況にあるとされています。低所得者世帯には補助制度もありますが、全く足りていません。

女性の自活を支援

26年にわたった内戦もあり、女性が世帯主の家庭が25%もあります。しかし、女性で給料がもらえる仕事についている人はわずか32.5%です。

サルボダヤでは、経済状況が悪くなってから企業などと連携して、生活物資の配布をしました。食べられない人

々のために緊急時には欠かせない活動ですが、ラスナヤケさんのようにこれから長い将来に向けて生活を立て直すうとして人々のための小規模産業支援もしています。

1世帯当たり約10万円の支援で必要な機材や材料を購入し、自営業を始めるために必要な研修プログラムを受けることができます。この危機と貧困から脱却するために、日本からも力を貸していたけると大変うれしいです。

スリランカ支援に皆さまの募金・寄付を募っています

JAFSでは、井戸や貧困対策・環境保全など、サルボダヤとともに農村開発活動を支援しています。故ジャヤワルダナ元スリランカ大統領が1951年のサンフランシスコ講和会議で「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む」と

いう仏陀の言葉を引用した演説は、被害を受けた国々が賠償請求権を放棄し、厳しい対日制裁を止め、日本の復興へつながった象徴的出来事として記憶されています。

ンカの人々に支援の手を差し伸べようではありませんか。◆銀行口座 三菱UFJ銀行 中之島支店、普通 1007011、公益社団法人アジア協会アジア友の会 ◆郵便振替 口座番号00960・6・1083 5、アジア協会アジア友の会

家を修理し学校に給食

フィリピン台風被災地へ支援

AFSアンティケ代表

ジェネロツサ・コンデス

2021年12月16日から18日にかけ、大型台風22号（国際名・ライ、フィリピン名・オデット）がフィリピン中南部を横断し、240万人を超える人々が被災しました。AFSバンドンとAFSサウスアンティケは、特に被害が大きかったパナイ島アンティケ州南部の海沿い地域で、日本からいただいた募金と、現地で被害の少ない地域メンバーの協力で、550世帯に緊急支援物資を配ることができ

ました。本誌149号参照。

受益者からは、心からの感謝と喜びの声が届けられていますが、貧しい漁村や農村なので、大きな被害が出た地域では復興の足がかりがつかめず、いままです。私たちは、被災者に何が一番必要か、私たちに何ができるかを話し合い、3つの活動に焦点をあてました。

まず、家の修繕です。速やかにできるだけ多くの世帯を支援するため、職人から指導を受けたボランティアでできる修繕と、安全面から職人にしかできない作業を分けました。呼びかけに

多くの人が協力を申し出てくれ、コロナ感染者を出さず、作業を間違いないするために、少数のチームに分かれて取りかかりました。裏表紙に写真。暑い屋外での作業に最初は四苦八苦しましたが、繰り返すうちに速く正確にできるようになりました。

屋根と壁の修繕を受けたエルザルデさんは「遠い日本からも私たちのことを思い助けていただき、本当にありがとうございます。家で安心して過ごせるようになりました」と、何度も何度もお礼の言葉を言ってくれました。

二つ目は、学校の子どもの支援と活動への協力です。学校自体が被害を受けたところもあり、自宅が大きな被害を受け、困窮する家庭の子も多くいます。先生の協力を得て、自分には食べられない子どもたちが学校で栄養を取れるよう、定期的に食事の

準備をしました。家財を失った子どもには衣類や学用品を贈りました。

三つ目はグリーンアウト活動です。多くの家が壊され、大量の木材が必要とされています。森の木が減ると水を保持できなくなり、土砂災害の危険が高まります。マロンパティの水源地を守る活動をしているグリーンアウトメンバーは、将来のために苗床作りと植林をしました。被害を少しでも食い止められるよう、青少年が中心となって活動しています。グリーンアウト活動の中では、できるだけ防災や緊急時の避難についても学べる機会をつくっています。

台風で田畑に被害を受けた農民や、船を失った漁民にとっては、まだまだ厳しい日々が続きます。これからも、被災者に寄り添って活動していきたいと思えます。

馬と生きるネパールの村にエール

日本とネパールの村をインターネットでつないで馬の飼い方を伝授するという、ちょっと珍しいオンライン講習会が実現しました。

ネパールでは、海外や都市などに収穫に出なければ生活できない村が多くあります。シンドウパルチョーク郡インドラワティ村もそんな一つ。生活が成り立つ持続可能な地域をつくりたいと3年前から、皆で循環型農業を定着させる取り組みを始めました。

それには家畜を飼い、作物を植え、木々を増やす必要があります。家畜は牛やヤギが一般的ですが、ここは昔、馬を使って塩の交易をしていた行路でした。馬を古くて新しい家畜として活用できるのではないかと考えました。

奈良県桜井市で馬の利活用を実践している「はたらく馬牧場」はJAFSの団体会員です。牧場長の松川一人さんは「馬と共に生きる」をテーマに、里山づくりとともにSDGs達成に向け取り組んでいます。「ネパールで馬を導入しました」と私が伝えると、「7月2・3日に、馬の利活用に関心を持って方向けに講習会をするので、ネパールともつながりましょう」と言ってくれたのです。

ネパールの村では6月にまず、2頭

日本からネットつなぎ講習会



の馬を迎えました。馬は荷物の運搬だけでなく、土を耕すのにも使えます。雑草を食べてくれるので植生が整い、糞はたい肥になり、自然な循環が生ま

れます。馬がこの地域に来たことにより、村の人たちの関心が大きく高まりました。今回の講師は、元調教師の角居勝彦

さん（馬好き競馬好きの方にとってはヒーローです）。角居さんは、馬とはどういう生き物なのか、どのように関わればよいのかということに焦点を当て、馬の基本的な取り扱い、農業への活用や馬具について、体験を交えながら教えました。写真。

松川さんも「かつて馬は、日本人の暮らしに欠かせないパートナーでした」と切り出し、「『駅』という字は馬偏（馬）です。郵便物を運ぶために馬を乗り継ぐ場所が現在の電車の駅の由来です。人と馬が一体となって暮らしていた証です。きっと山国ネパールでも同じだと思いますよ」と話しました。

ネパールの人たちも新しいアイデアが浮かんだ様子で、参加者から「馬を飼うよ。農業だけでなく、車が通れない場所の移動を馬ですること、足の悪い人たちの移動を助けたいと思ったいという人たちがこの地域に呼び込みたい！」という声が上がりました。

講習会の2日間は炎天で、携帯電話やタブレットが過熱し、接続が何度か途切れましたが、ネパールの20名ほどの参加者は一生懸命聞いていました。村にいる白い馬は妊娠中で、長旅したせいなのかとてもやせています。回復させるための餌やりや運動について何度も質問が出ました。村では今年、さらに2、3世帯が馬を飼う予定です。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

今も役立つ校舎・コミュニティハウス

豊かな緑と新しい農業育つ



植林地に約20年前に建てられたコミュニティハウスと、当時植えられて大きく育ったレモンの木=いずれもネパール、カルパ村

8月4日、ネパール、カトマンズ市内は朝から汗がにじむぐらいの暑さですが、標高1750mを超えるファルピン地区は、薄手のカーデイガンがあっても良いぐらいひんやりと感じる気温。カトマンズから未舗装の道を何度も車中でジャンプしながら、約1時間半かけて着きました。ここには「朝日読者の森」プロジェクトのカトマンズ・サイト、カルパ村があります。

野菜栽培で潤う地域に

カルパ村では、2001年から5年間、換金性の高い木と水源涵養林の植林とともに、森管理組合のコミュニティハウス建設や灌漑用タンク設置により、緑化と地域産業の創出をめざしました。また地域の教育環境向上のために、公立学校の増設を実施しました。

3万3千本を植林したこの村には、森管理組合ができています。訪問時、カボチャやキュウリなどを収穫した人たちが売りに来ていました。その中のラッチミーさんが今の状況を話してくれました。

「皆さんのご支援により、私たち自身が地域のために動く必要があるということをお教えられました。私はそれま

ネパール「朝日読者の森」の20年

で、地域住民による森管理組合に加入していませんでした。女性が入るなんて考えてもいなかったのです。皆さんの勧めで新しい種類の木を植える計画に心が躍り、加入したんです。少しでもこの地域の収入が上がればと、レモン、ミカン、ラプシー、椿などをみんなでたくさん植えました。イチゴ栽培やブリック燃料づくりもしました。植えた木はしっかりと根付いていたのですが、一部成長できなくなった木がありました。気温が低いのと、固い地面で肥料が十分足りていなかったためなのです。でも、植林のおかげで保水力が高まり自然樹が多く育つようになり、森が形成されました。そのおかげで、農業に有益な状況となり、今、村人の多くは野菜作りに精を出して収入につなげるようにしています」

AFSネパールが今春にこの村を訪問した際には、当時この森づくり事業に積極的に関わってくださったラル・バハドウルタマンさんの息子、ルドラ・バハドウルクワールさんに、次のような現状を伺うことができました。

「森管理組合は現在も存続し、違法・規則外の木材の伐採や、火災防止など森の見守りをしています。当時植林・造林された森林は維持され、果物も小さい実をつけるものが百数十本あります。本プロジェクトで建設されたコミュニティハウスは、ネパール地震でも大きな被害を受けることなく、現在

も地域の女性グループや森管理組合の毎月の会合に使われています。当時設置した農業用水設備は、15年まで使われていましたが、大地震後に水源が枯渇して使えなくなりました。その後、自治体によって飲料水と農業用水の給水施設が設置されたため、現在はそちらを使っています」

建てた校舎が今も健在

森づくりをしている03年、この村の子どもたちの多くが通うスリーセティ・デヴィセカンダリースクールより、学校増設の協力要請が寄せられました。当初は別のNGOによって建設された1階建ての学校でした。10年生までの300名を超す子どもたちの教育を担うには教室が足りず、小さな教室を2学年共同で使っていました。そこでこの増設にも協力する運びとなり、翌04

朝日読者の森 朝日新聞大阪販売局がネパール、フィリピンで取り組んだ森づくり。植林をJAFSに委託。販売店、読者からも募金を呼びかけ、第一弾のネパールでは2001年度から5年間、首都カトマンズ近郊の山間地カルパ村とインド国境に近いチトワン国立公園近くの2カ所を実施。

年に2階と3階の増設が完成し、地域の子どもたちの教育環境が大きく改善され、生徒数も増えていきました。その学校へも久しぶりに訪問しました。

18年後の現在、生徒数は210名。近くに私立の学校ができたため、以前より減っているとのこと。校長先生が2交代替わりし、ガジュンドラK・C校長がこの4月に就任しました。新校舎完成当時を知る数少ない教師の一人です。

現在は少し離れた高台にも校舎2棟が増設され、保育園・幼稚園クラスが4クラスと1年生から3年生までが学



スリーセティデヴィセカンダリースクールには18年前に建てた校舎が昔の面影のまま残って使われている

は見ながら、「このようにして朝日読者の会の皆さまのご協力があり増設することができたので、今の本校の姿があると、つくづく感謝しかありません。あの時の大きな変化を私たちは忘れることができません」と、当時を想い出しながら語ってくれました。

もう一つのプロジェクト地であるチトワン・サイトには、大雨で途中の道路が封鎖され、訪問できませんでした。後日、第2弾として報告します。

(JAFSスタッフ 熱田典子)

異国からウクライナの平和祈る

大阪に避難して来た人たちに聞く

ロシア軍のウクライナ侵攻から避難して来た人々を、日本も受け入れるようになり、大阪でも5月20日から「ウクライナ避難民就労支援窓口」が開設されました。私たちは前号で報告したウクライナ支援チャリティコンサートなどで皆さまから寄せていただいた義援金を、避難して来た方々のために一刻も早く役立てたいと考え、行政から在留ウクライナの方々を紹介してもらい、話を聞きました。

祖国守ると 兄は兵士に

初めに会うことができたイリーナ・ステツェンコさんは、19歳のときに来日し、中学生の男の子を育てているシングルマザーです。ウクライナには母親と兄家族がいました。ロシア軍の侵攻が始まる1カ月前にウクライナに里帰りしていました。当時と今の故郷の差に、心が張り裂ける以上の思いで、毎日を過ごしています。

「何が起こりそうで寝れない」
日本に戻ったイリーナさんの元に、兄から国際電話が届きました。まさにその時に侵攻が始まっていたのです。日々ひどくなる状況の中、兵士として戦うという兄を止めることはできません。

に走っていく車。見ていられず、涙が止まりませんでした。こんなに誰もウクライナのことを気にかけないか。自分の国の旗が踏みつぶされたら悲しくないのか。車の数が少なくなった隙を見て、踏みつぶされた旗を、道路の脇に立てかけました。そしてようやく気持ち少し和らぎました。

ドイツへ、そして東京、大阪へ。以前にも日本へ来たことがあります。しかし、そのときは全く心境が違います。戦争が終わらない母国には息子がいます。兵士として戦闘することを希望しています。自国を守るためです。

そんな中で来日して、心が重い。日本に来られたからといって、安心できたわけではない。自国を離れてしまったので、国として家族のために何かしてあげることができません。日本でも飛び交う自国のニュースや情報を耳にすると、異国での生活への不安、母国への思いが相交じり、来日してから、涙を流さなかった日はありません。娘を頼りにして暮らす毎日。生活費を娘が肩代わりしてくれているのが申し訳なく、自然と節約し、娘と外食するときには一番安いものを選ぶようにしています。

言葉が分からない日本での生活には不安ばかりが募ります。少しでも誰かと話ができればいいなと思います。早く母国へ帰りたいと思います。母国のことを忘れることはありません。

んでした。せめて母親のニーナさん（64）と姪のオーケレサンドラさん（12）だけでも日本に来て欲しいと説

得を繰り返して、4月によく呼び寄せることができたそうです。ニーナさんは日本語を全く理解できません。ようやく近所のスーパーで買い物に行けるようになりましたが、それ以外一人で行動することは困難です。オーケレサンドラさんは12歳で多感な成長期。日本に到着後、解放されたかのように、体の急成長が始まったそうです。しかし、自分だけ日本にいいいいのかという思いが重くのしか



ウクライナから避難して来た母のニーナさん（左）と日本在住のイリーナさん

苦しむ母国思い 楽しいない日々

オーケレサンドラ・ステツェンコさん
どうして日本に来なければならなかったのか、毎日そればかりを考えています。日本での生活はあまり楽しくないし、気が乗りません。

母国を離れた自分に何ができるか。ブレスレットを作って販売し、収益を送金することができる。それで家族や母国を助けることができる。12歳ながらに考えました。母国に残っていたら、負傷した人のケアをしたかったとも思っています。母国がなくなりそう

早く母国に帰りたいと思う日々。日本でどこか外に連れて行ってもらうのも、気分は落ち込んだまま。家でおとなしくじっとしていたい。今は日々、ウクライナ仕様のブレスレットづくり

に励んでいます。それで少しでも家族、そして母国を助けたい。

難民に物資手渡す 活動をしたい

加藤カテリーナさん

両親をウクライナから呼び寄せました。両親は府営住宅に入居でき、肩を寄せ合いながら日本で暮らしています。両親は日本語ができるわけではあ

物資配布活動を を応援します

JAFSは、以上のお話を聞いた方々に、既に生活資金を支援しました。また加藤カテリーナさんが願う、避難民の方々への物資配布を実現するために共催でお手伝いすることとしました。

JAFSは所在地の自治会に加入しているので自治会館をお借りすることができ、8月30日に1回目の物資配布を開催しました。主な配布物は服、靴、日用品。ホームページを見た会員も、手伝いや物資持参のため会場に駆け付けてくださり、ハンガーを貸してくれたリサイクルショ

かり、精神状態が不安定になることがしばしばあります。イリーナさんの息子と同じ学校には通わせず、ウクライナの学校のオンライン授業を受け、母国との繋がりを保っています。イリーナさんも精神安定剤を服用しなければならぬことがありました。「私が家族を守らなければ」との思いが私を支えています。母と姪の言葉を私達に訳しながら時折涙を拭く姿から、彼女の肩と心にかぶさるものの重さがこちらにも伝わってきました。

「何もできない」 募るもどかしさ

ニーナ・ステツェンコさん

4月11日、姪と一緒に日本に着きました。その前に、日本へ渡航するビザを申請するため、電車で隣国ポーランドへ向かいました。通常ならウクライナから電車で8時間ですが、敵に動きを察知されないようないよう何度も止まり、1日かかりました。ポーランドには1週間滞在しました。

現地で車で移動中、ウクライナの旗が、雪解けの道路に落ちて風に吹かれていました。その旗を踏みつぶすように、ほとんどの人がポーランドなど近隣国に電車で移動し、その後、飛行機に乗ります。そのため多くの人たちが、少しの荷物しか持たないまま来日するしかありません。洋服もほとんど持っていません。

日本の方々や在留ウクライナの人たちに声をかけて物資を集め、必要な人たちに渡す活動をしたいです。私たちには登録団体がないので会場を貸してもらえません。この活動に協力してもらえたら、大変多くの人が日本でさらに暮らしやすくなると思います。

「PPKANAU」、遠方から物資や寄付金を送ってくださった会員の方々に、カテリーナさんやイリーナさんはじめ在留ウクライナの方々が喜びで「ありがとう、ありがとう」と何度も言葉を贈られていました。この配布を知り、小さな子どもの手を引いて駆けつけた避難民の方々からは、不足している物を補うこと、大人も子どもも抱える辛い気持ち、大人も子どもも抱える辛い気持ちが少しでも軽くなればとの願いが伝わってきました。今回の配布時は皆様からの義援金より、会場費とポスター購入を支援しました。今後も避難民の方々の生活を守る一助になるよう、物資配布を支援します。必要物資はホームページで呼びかけさせていただきます。

コスモニケタン学園を守ろう サトウキビ栽培プロジェクト



▶2022年5月2日に植え付けたサトウキビの苗が、8月下旬にはこのように育った。インド、カルナータカ州ビジャヤプーラ、コスモニケタン学園

コロナ関連の諸費用も加わって学園の財政は厳しい状況に陥り、教師の給与支払いも滞っています。

このような状況を打開するために、BSVIAは農業で収入を得ることを計画。学園近くの10軒の土地でサトウキビ栽培をします。計画の一部は農業協同組合からの融資を受けて、すでに始めています。このプロジェクトを、JAFSコスモニケタン支援会が教育支援の一環としてサポートします。

サトウキビは植え付けて1年で収穫でき、その収入はコスモニケタン運営のために用いることができます。さらにこのプロジェクトは、職を失った地域の住民たちに雇用の機会を与えることもあわせて目的としています。

学園は農村地域にあり、住民の多くは農業の収穫などに従事するクーリー（日雇労働者）として働くか、他の州に出稼ぎに行っていました。彼らはコロナ流行による長いロックダウンで職を失ったり、自分で作った農作物が市場の閉鎖で売れずに収入を失いました。そのような地域住民に、このプロジェクトは雇用の機会を提供します。

約30年前、コスモニケタン創設者であるH・G・クンパール氏は、ブドウ農園を導入し、今この地域はブドウ生産で有名になっています。このようにBSVIAは農業には実績があります。サトウキビは有機農法で作られ、少ない化学肥料で多くの収入を生み出せま



◀7月8日、コスモニケタン学園では生徒たちが元気に登校して、新学期が始まった。インド、カルナータカ州ビジャヤプーラ

す。既存の施設を活用して、有機農法を教える農業研修センターを開設計画で、そこからも収入が期待できます。

サトウキビは一度植えると3年間収穫でき、2年目からは肥料と労働力だけで済みますので、安定した収入源になります。2年目の必要経費は1年目の収益で賄う計画です。現地では、サトウキビ栽培の専門家の助けと助言を得て、このプロジェクトを成功させるために努力しています。

サトウキビ栽培に欠かせない水ですが、幸いなことに栽培地の近くに政府の大きな水路ができ、この水を使うことができます。中央政府は製糖工場に

住民に雇用、先生には給与を

インド・カルナータカ州ビジャヤプーラにある日印友好学園コスモニケタンの教師の給与と運営資金を生み出すために、学園の運営団体であるBSVIAがサトウキビ栽培プロジェクトを新たに始めました。

新型コロナウイルスの大流行により、インドでは多くの私立学校の生徒が減って運営が困難になっています。コスモニケタンも例外ではありません。

1996年、インドのNGOであるBSVIAとJAFSによってこの学園が創設されて以来、学園は農村部の貧しい子どもたちの明るい未来を築くために質の高い教育を常に提供してきました。教師たちの努力によってビジャヤプーラ地区ではトップクラスの成績優秀校となっており、多くの卒業生が社会で活躍しています。しかしその活動を維持するためには、教師に給与を支払う必要があります。

コロナ流行は、学校運営にも大きな影響を与えています。2020年と21年には入学者数が激減しました。コロナ禍で親が職を失った結果、教育の質の高さよりも、制服や給食までも無料である公立の小学校を選ぶ家庭が増え、学校をやめてしまった生徒も増えたためです。

学園の基本的な収入源の一つである寮の入寮者はゼロでした。さらにガソリン価格の高騰に加えて、スクールバス代を支払えない生徒が増えました。

術が不要とされています。農家にとって非常に魅力的な作物と言えます。病虫害に気を付けて栽培することで、持続的に十分な収益を得ることができ、雇用とコスモニケタン学園への支援の両方が可能になります。コスモニケタン自立への持続可能なプロジェクトと言えるのです。

しかし、このプロジェクトを推進するためには、1年目には以下のような初期費用が必要です。①肥料の購入費 ②維持管理費（人件費） ③農地の整地および資機材のレンタル費用 ④トラクター購入のための頭金、の合計120万円です。

このプロジェクトが成功すれば学園の経営が安定し、貧しい家庭の子どもたちが安心して学び続けられる環境を整えることができます。さらに、地域の人たちに雇用の機会が与えられます。そのためには皆さまからのご支援がぜひ必要です。プロジェクトへのご寄付を心からお願いいたします。

（日印友好学園コスモニケタン支援会 大本 和子）

コロナ禍に屈せず

出荷されるサトウキビに、買い取り価格の下限である公正収益価格や農家への支払い期限を定めており、サトウキビはインドにおいて農家収入が担保されている唯一の作物です。

さらに、サトウキビは気象災害などに強く、他の作物と比べ特別な栽培技

皆さまの募金・寄付を募っています



◆銀行口座 三菱UFJ銀行 中之島支店、普通1007011、公益社団法人アジア協会アジア友の会 ◆郵便振替 口座番号00960・6・10835、アジア協会アジア友の会 ◆クレジットカード 上記QRコードの「コスモニケタン・サトウキビ」寄付ページからお願いします。

テーマ：途上国のごみの実情と国際環境協力

日本の視点でなく相手の求めに応じ NGOならではの人と人をつなごう

JAFSの セミナーから

「開発途上国のごみ問題の実状と国際環境協力の事例」オンラインセミナーを、7月23日に開催しました。JAFSはアジアのごみ問題や海洋プラスチック汚染に取り組んでいます。専門家から客観的に学び、市民レベルで私たちに何ができるかを一緒に考えたいと企画しました。高校生から80歳代までの25名が全国から参加しました。講師は、一般社団法人国際環境協力ネットワーク代表で、国際協力機構（JICA）国際協力専門員でもある吉田充夫さん。1984年以来40カ国以上で国際環境協力事業に従事されています。講演の一部を紹介します。

（JAFSスタッフ 川本 裕子）

- ◆住民の不法投棄でも街が汚れる。
- ◆運搬業者が処分場に運ばず不法投棄するごみも相当量ある。行政の組織管理が良くないと、いくらお金を注ぎ込んでも街はきれいにならない。
- ◆処分場が低地なので、ごみの一部が川からベンガル湾に流れ込み、海洋プラスチック汚染の一因になる。
- ◆処分場にもウエイストピッカーがいて、資源循環に重要な役割を果たしているが、労働環境は非常に悪い。
- ◆バン格拉デシユに多い皮なめし工場の汚泥廃棄物は、有害な六価クロムを含み、未処理で排出されている。

このダツカのごみ処理を改善したいとの要請が日本にあり、専門家チームを派遣して支援することにしました。日本の視点ではなく、相手国の発展段階や求めに応じた援助協力を努めています。施設・機材は高額なのでODAならではの支援方法ですが、人と人との協力関係に根ざした支援には、NGOやボランティアが非常に有効です。ダツカの優先課題は「発生するごみをいかに収集運搬して都市清掃を実現するか、公衆衛生を確保するか」でした。まず、廃棄物管理部を設立しました。宗主国イギリスをまねた旧来の行政組織になっており、新しいごみ問題に部局間が連携しにくいいため、一元的な廃棄物管理組織を設置しました。収集運搬を強化すべく、街頭コンテ

世界のごみの66%は開発途上国から出ています。これらの国では処理まで手が回らず、ごみ山の崩壊や浸出汚染水による森林破壊、川や海へのごみ散乱も起きています。

講師：吉田充夫（国際環境協力ネットワーク代表）



ナーへのごみ収集率を上げるため、家庭を回る収集サービス組織を、行政が元ウエイストピッカーから募って作り、給料を払うことにしました。コミュニティで意識啓発や合意形成もして住民参加を促進しました。

収集に関する組織とシステムができた段階で、収集トラック車「右の写真」、JICA専門家チーム提供「を供与し、新しい衛生理立処分場を建設しました。子どもを通じた家庭の意識啓発を狙い、学校での環境教育もしました。ごみ関連作業に従事する人々は社会的弱者ですが、ごみ管理に欠かせないことが多いです。グローブを供与し労働安全を確保したり、誇りを持って

3Rの循環型社会へ

一人当たりのごみ量は、国の経済成長と相関するが、成長が進むにつれ増加は鈍ります。生ごみの量は経済レベルにあまりかわらず、高所得になるにつれて紙・プラスチック・ガラス・金属ごみが増えます。経済成長に伴い、ごみ収集が行き届き、街はごみがない状態になります。日本でも160年ほど前、江戸末期から明治初めにかけては、今の途上国と同様のごみ問題があり、コレラなどが流行しました。その後、ごみ焼却処理が進みました。

経済成長すると、ごみは収集されませんが、最終処分場は、土による被覆もないオープンダンプサイト方式のごみ山のままの国があります。街にごみが残っていれば住民からクレームが出来ますが、郊外の処分場はクレームが出にくいからです。人々の声や公衆衛生意識が、ごみ管理を改善する推進力です。

働けるよう地位回復に配慮しました。また現地NGOと協力し、スラムから出る生ごみを分別収集して買い取り、堆肥にして売却するモデル事業にも取り組まれました。

弱者を取り込み育てる

第1段階は収集運搬を中心に整え、都市からごみをなくし公衆衛生を確保。次に、衛生的な埋立処分場の建設や環境汚染・気候変動対策など、処分

す。住民の意識が極めて重要です。処分場に使える場所は有限なので、収集後に中間処理（リユース・リサイクル）することによって、処分場に行く量を減らす必要があります。日本での中間処理のメインは焼却。途上国はリサイクルと堆肥化が多いが、50%以上は中間処理をしないまま埋立処分されています。

先進国は3R（リデュース、リユース、リサイクル）を取り入れた循環型社会を目指すようになってきました。途上国にもこの考え方を紹介し、今のやり方をしてはだめだと気づいてもらうよう国際協力をするのが今後の方向性だと思います。

まず組織、その次に機材

1998年〜2015年に政府開発援助（ODA）による廃棄物関連の施設・機材整備を支援したバン格拉デシユ・ダツカの事例を紹介します。元は次のような状態でした。

◆家庭ごみを持ち寄る街頭の収集コンテナにはごみがあふれている。そこからプラスチックなどの有価物を拾って生計を立てるウエイストピッカーと呼ばれる人がおり、ごみ減量に役立つにはいる。収集は手作業でトラックにごみを積む「左右の写真」、JICA専門家チーム提供「ので積み残しが散乱し、衛生状況が悪い。

の適正化。第3段階として3Rなど資源循環に取り組み。というように段階的に発展させるべきと考えています。2003年以前の活動は、政策・戦略の提言、組織制度の構築・強化、個別の技術指導、施設・資器材の導入、調査・計画などでしたが、04年以降は、現状を変えるためには意識啓発・環境教育、社会的弱者の取り込み、人材育成・研修などが必要と分かっただけで、活動に取り入れています。

今秋も11月19日ブルーオーシャン作戦

セミナー参加者は、国際系大学の進学を目指す高校生、廃棄物処理関連の仕事の方、化学メーカーで素材開発をしている方、JAFSのブルーオーシャン作戦に参加された方ら、それぞれの立場から関心をお持ちの方々と、参加動機を満ちす学びができたこと好評をいただきました。

ごみ問題に様々な側面から関わる日本人の知恵が、アジアの人々が衛生的な生活環境を求める思いや現地の知恵と組み合わせ、人と人との協力関係に根ざすNGOならではの活動で、アジアのごみ問題の改善に寄与できれば良いと願っています。

講演の中に「人々の声や公衆衛生意識が、ごみ管理を改善する推進力で、住民の意識が極めて重要」との

指摘がありました。昨年11月に3カ国5地域でブルーオーシャン作戦（海岸ごみ拾い）をJAFSと共にしたフィリピン・マトノッグではその後、ごみ拾い活動がいつそう活発になり、そして行政のごみ収集頻度の低さに住民が苦情を言うようになり、収集頻度が上がったそうです。この作戦が、住民の意識を高めるきっかけになったのだと思います。

今年も11月19日に日本、フィリピン、インドネシアの3カ国でブルーオーシャン作戦をします。日本は昨年は大阪・東京2地域でしたが、今年4月の開催時は16地域に増えました。皆さんもぜひ参加して、地球規模のごみ問題・海洋プラスチックを改善しませんか。事務局（川本）まで。

井戸管理委員会がしっかり維持

村周辺には人工水路や池がいくつかあり、この地域に住む人たちは、大雨により水が川や池にある時は、その水をくんでいました。しかし水が非衛生的で健康被害のもとと考える人は、雨水を集めるか、道中危険のある遠く離れた村の井戸水をくみに行っていました。新しく設置されたこの深井戸により、小学校の子どもたちはもちろん、村人も安全な飲み水に容易にアクセスできるようになりました。井戸管理委員会もでき、井戸と敷地内はしっかりと維持管理されています。



【寄贈者】大西サキ子様
ジャマルプール県ラナガチャ地区クマリアBDP
小学校内 受益者…67世帯335人
井戸の形式…ポンプ式(深さ275m)

【寄贈者】株式会社グローアップ様

ジャマルプール県シュリープル地区ビシノプルBDP小学校内 受益者…63世帯315人
井戸の形式…ポンプ式(深さ276m)



衛生的な水で病気が減る

これまで村の人々は、川や池から飲み水をくむしかありませんでした。しかし、決して衛生的とは言えない水質のため、長年の間、多くの人々が病気になり、腹痛や下痢に苦しんできました。学校に深井戸ができたことで、子どもたちや村人は衛生的な水を飲むことができるようになりました。今後、子どもたちが、腹痛や水が原因で起こる様々な病気にかからないことを、地域の人々は願っています。井戸を寄贈してくださったグローアップの皆様に心から感謝しています。

水道が条件の新設学科が承認される

社会の最底辺に置かれた指定コーストラが住むミンナパリ村のチャイルドプラン・アカデミーに新設された科学科には、600人以上の生徒が通っています。生徒たちは皆、登校初日から幸運にも、この井戸のおかげで安全な水を手に入れることができます。科学科が政府の承認を得るためには、水道の整備が必須であり、対応が急がれていました。この井戸が寄贈されたことにより、科学科で水が利用可能になり、そしてアカデミーとして政府から承認を得ることができました。



【寄贈者】湯川剛様

タミルナドゥ州ナマカル県ミンナパリ村チャイルドプラン・アカデミー科学科 受益者…8500人
井戸の形式…露天式(深さ215m)

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

いのち 生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■ (2018年4月現在)

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円 (パイプライン=25~150万円)
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
☎06-6444-0587

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで 井戸ができた村

一年中安全な水が飲める

この地域での唯一の水源はカンサ川ですが、川にはモンスーンの時期だけ新鮮な水が流れ、それ以外の時期は水位が下がって澱み、水は底から暗褐色になってしまい、飲用水や料理に使用することができません。新しく設置されたこの井戸は、スワリカンダBDP小学校の子どもたちはもちろん、村に住む人々にとっても主要な水源となりました。この井戸はヒ素汚染の心配がなく、生活水を必要としている近隣・遠方全ての人々が、一年中安全な飲み水にアクセスすることができます。



【寄贈者】株式会社エスケイオー様
ネトロコーナ県タクロコーナ地区スワリカンダBDP小学校内 受益者…57世帯285人
井戸の形式…ポンプ式(深さ272m)

【寄贈者】株式会社エスケイオー様

ネトロコーナ県ロイプール地区ノアラBDP小学校内 受益者…45世帯225人 井戸の形式…ポンプ式(深さ277m)



生徒・親・先生・村人みんな感謝

ノアラ村には真水にアクセスするための人工水路や池がほとんどありません。唯一ある川の水は飲める水ではありません。井戸が設置されてから、今までのような水系の病気による健康被害やリスクが減少したことに、村の人々は非常に喜んでいました。雨が降ったらどうしようと心配することも、近隣の村や遠くの水源に安全な飲み水をくみに行く必要もなくなりました。生徒たち、その親、先生、村人は皆、井戸を寄贈してくださった会社の皆様にとても感謝し、喜んでいました。

安全な水でコロナ感染予防

井戸をご寄贈いただいたことにより、安全な水を村の中で得ることができるようになり、とても喜んでいきます。今までは、衛生上問題のある水しか手に入りませんでした。飲料水の他にも炊事・洗濯・水浴び・家畜の飼育・菜園にも水が使えるようになり、生活環境が大きく改善されました。新型コロナウイルスの感染が都心部から農村部に広がることもありますが、井戸ができてからは安全な水で感染予防を実践することができるようになりました。本当にありがとうございました。



【寄贈者】京都橘ライオンズクラブ様

タケオ州トリアン郡クバブ地区ドゥンブー村
受益者：9世帯31人
井戸の形式：露天式（深さ32m）

村の中で水が得られ生活改善

村には安全で十分な水が得られる井戸がなかったため、村人は約1.5km離れた寺の池まで、水をくみに行っていましたが、多くの時間を費やして安全ではない道を行き、他の仕事をするのができず、また学校に通えない子どももいました。池の水は、乾季には水量が大きく減り、必要な水量を得るのはとても難しいことでした。井戸をご寄贈いただいたことにより、安全な水を村の中で得られるようになり、村の人々の生活が大きく改善されました。



【寄贈者】京都橘ライオンズクラブ様

タケオ州トリアン郡クバブ地区ドゥンブー村
受益者：8世帯42人
井戸の形式：露天式（深さ32m）

【寄贈者】京都橘ライオンズクラブ様

タケオ州トリアン郡クバブ地区サモールロイ村
受益者：7世帯37人
井戸の形式：露天式（深さ22m）



衛生的な水が村で使える

従来の主な水源は池で、その池には洗濯や炊事の排水が流れ込み、また人も動物も水浴びをするので、飲料として安全とはいえない水でした。ミネラルウォーターは売られていますが、現金収入が少ない中では買うことはできません。水は沸騰させて飲んでいましたが、水が原因の病気になる村人も多くおり、病気になってもお金がないため病院へも行けない状態でした。井戸ができ、村の中で衛生的な水を使うことができるようになり、村の人々の生活が大きく改善されました。

村人が協力した井戸作り 【寄贈者】株式会社クレコス にこにこ倶楽部様

離れた水源まで水をくみに行くのは大変な重労働で、特に子どもにとっては安全とは言えない道のりでした。長年、安全な水が飲める井戸を待ち望んでいた村人は建設にとっても協力的で、専門家がする作業以外は、民族・宗教の違う多くの村人たちが、井戸周辺のプラットフォーム作りや道路整備を行いました。子どもたちは井戸の周りに植林も始めました。木々を育てて緑多い土地をよみがえらせれば、井戸の水が枯れず、土砂崩れなどの自然災害からも村を守ってくれます。



ウバ州バドゥッラ県カンテカティヤ地区バラウエラ村
受益者：11世帯48人
井戸形式：露天式（深さ8m）

水くみ労働から解放

この村には暮らしに使えるような水源がなかったため、舗装されていない道を遠くの水源まで何時間もかけて歩かなければなりません。男性は出稼ぎや農業をするので、水くみは女性や子どもたちが担うことが多く、時間もかかるし大変な重労働でした。ご寄付によって村に井戸ができることを村人たちはとても喜び、民族・宗教の違う多くの村人が協力し合って交代で働き、今まで以上に村の結束が強まりました。井戸があることで衛生教育も実践できるようになりました。

【寄贈者】スリランカサルボダヤ友の会(No.9)様

ウバ州バドゥッラ県ミীগハキュラ地区アガラウラボッタ村
受益者：13世帯55人
井戸の形式：露天式（深さ6m）



自力で井戸掘れない人が救われた

前の居住地が洪水で住めなくなった人たちが移住してできた村です。住民の多くは低カーストで、不可触民と言われる民族が多いです。身分差別のないキリスト教に改宗した人が多く、差別のないこの土地に住みたいと別の民族も住み始めました。川に近いので比較的浅く掘っても水が出るため、自分たちで井戸を設置する人もいますが、定職をもっていない人、母子家庭など自分たちでは井戸を設置できない人たちのために、エーゼル株式会社様のご支援で井戸が設置されました。



第4州ナワルプル郡カワソティ市第13区ゴイリガウン・ナヤバステイ
受益者：5世帯24人
井戸形式：手押しポンプ式（深さ6m）



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ裏表紙にアドレス、連絡先



「JAFS愛いつまでも!!」43年目の集い

6月29日、兵庫県の尼崎市生涯学習センター中央北プラザに、40名のJAFS会員が集まりました。写真。当会創設者である村上公彦事務局長と共にNGO活動を体現し、JAFS発足から43年、様々なプロジェクトの支援をしてきた元理事や元地区世話人を中心とするメンバーです。

会の冒頭、故人となられたお仲間にも黙とうを捧げた後、参加の皆さんからひと言をもらい、「JAFS愛はいつまでも!!」ということで開催になりました。

困窮するアジア同胞からは「命の水の確保」をはじめ、暮らし、学び、医療、自然災害救助など、様々な切羽詰まった支援が求められていました。それぞれを支援するために、現地でのワークキャンプや救援に参加する、支援資金の捻出にメンバー各人が仲間を募り、考え、行動するなど、工夫を凝らしてきました。

さらにその頃、国内では阪神淡路大震災が起きました。「ボランティア活動」という、利害を超えた意味のこの言葉が、広く意識されるようになりました。JAFSでは当時、会員が阪神間に多く住んでいました。その会員の安否を確認する中で、助け合う精神がクローズアップされるようになりました。

困窮するアジア同胞への支援は、緊急で待たなし。即刻、現地へ赴くことも多くあります。背後での資金捻出も待たなしです。このタッグを組んだ熱い思いが、当日の集まられた皆さまを今も固くつないでいます。

(JAFS理事・地区世話人OB会世話人 渡邊瑠璃子)

賛美歌聴いて夏夕礼拝



7月10日、京都市北区の日本キリスト教団洛西教会の夏の夕礼拝を、JAFS京都地区との共催でおこないました。同教団寝屋川教会牧師である村上公彦・JAFS事務局局長が、「時代の正義を担う者となろう」の題で説教し、参加した学生に向け自身のライフワークであるアジアとの出会い、関わり合いから、JAFSの今日の取り組みについて熱く語られました。

この日の参加者は32人(うち学生17人)。同志社大学生聖歌隊の田村さんは「私と同じ若者や子どもが、生まれた地域が少し違うだけで、生活にこんな大きな違いが出ることに心苦しくなりました」と語ってくれました。献金2万6千円はフィリピン、インドの教育支援のために使わせていただきます。(JAFS理事 柳井一朗)

外国人と仲良く暮らすには…



JAFS高槻主催の第7回アジアンホームパーティーを7月30日、大阪府高槻市のクロスバル高槻で開き、バンングラデシ出身のマホムッド・ジャケルさん。写真前列中央の赤いシャツの人からお話を聴きました。

ジャケルさんは3月に自らの留学体験記『パンツを脱いだあの日から・日本という国で生きるー日本社会の一員になったバンングラデシ人の物語』(ゴマ書房新社)を出版しました。銭湯で丸裸になることにカルチャーショックを受け、漢字の読み書きに苦労した体験などを語りました。

その後、バンングラデシ人留学生を

交え、「外国人と仲良く暮らしていくにはどうすればよいか」というテーマでグループ討論をしました。参加した女子中学生は「日本で苦勞しながら勉強している留学生を尊敬している。でも差別や偏見など課題は多い。こういった交流会を通じてお互いの価値観や

醤油蔵に響くアジアの音と踊り

「アジアフレンドシップ『夢』基」チャリティライブを6月5日、大阪府河内長野市の上堂本店醤油蔵跡で開催しました。

JAFSスタッフ鳥居京子さんの軽妙な司会で、ライブの趣旨を私が夢基金世話人代表として説明。かるらさんのインド舞踊。写真上、土長けいさんのバリ舞踊。同下と、美しく熱い舞台になりました。観客数人が舞台上がり、舞踊の独特な手の動きや眼力を体験する様子に、会場は笑いに包まれ

趣味などを知ることが必要ではないか」と述べ、ジャケルさんは「人の価値観は常に変わっていく。いずれは外国人という言葉がなくなり、日本に住む仲間として仲良く暮らせる社会が実現すると思う」と述べました。

(JAFS高槻世話人 古井紀行)

ました。

休憩後は和楽器デュオ「音の羽」の演奏。坂上享さんの蔵跡に響き渡る太鼓の雄々しさ。一人三役をこなす大谷加奈子さんの三味線の激しいパチさばきや篠笛。心に響く魂の共演でした!ご臨席賜ったインド総領事のニキレーシユ・ギリさんも、とめどなく拍手を贈られていました。

「夢」基金は、JAFSが培ってきたアジア18カ国のネットワークから創設され、貧困対策や環境保全など

温泉を楽しみアジアを応援

お互いに支え合う基金です。1口1000円から受け付けています。どうぞ協力ください。

(JAFS理事・夢基金世話人代表 坂口久代)

JAFSの温泉同好会「旅は道連れ会」は、会員が主となって温泉好きな方を募り、年3〜4回温泉を楽しんでいます。その参加費から「フレンドシップ基金」として、アジア支援プロジェクトの応援資金を出しています。日帰りが多いのですが、年に1回は泊りしてゆっくりするようにしています。最近行ったのは、日帰りでは太子温泉、生駒の音の花温泉など、1泊では白浜、有馬などです。会員制の施設をうまく利用させてもらい、経費的には助かっています。

温泉だけを楽しむものではありません。参加者の体験や知恵ある話が聞ける、楽しい酒の交わりが待っています。しばしの語らいは至福のひとつです。

参加してみようかと思われる人は、JAFS事務局までご連絡ください。次回の日時が決まり次第、お知らせいたします。

(JAFS理事 上野孝一)

JAFSチャリティイベントカレンダー

2022年秋

<お知らせ>
 新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながら各種イベントやセミナーを無理のない範囲で開催していくことにしました。ただし、状況次第では中止・延期の可能性もありますのでご参加される場合は事務所に直接お電話か、JAFSホームページ等でご確認くださいませようお願いします。

月	日	地域	行事名	時間	きりとり 実施場所	参加費	内容
10月	8日(土)	西区	第4期JAFSアジア市民大学 第3回 ロシア・ウクライナ ウクライナは今 ロシアはなぜウクライナを侵襲したのか	14:00 ~ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	日本ウクライナ文化交流協会的小野元裕会長が、ウクライナとロシアの歴史を紐解きながら、ウクライナ侵襲の現状、日本に逃れてきた避難民の現状について生の真実を語ります。そして私たち日本人が何をすべきかを考えます。
	9日(日)	大東市	JAFチャリティバザール&ステージ ※雨天の場合は、翌日10日(祝)に開催します。	10:00 ~ 16:00	JR住道駅 北側デッキ広場	無料	楽しく多彩なステージを楽しみながら、美味しい料理を味わい、フリーマーケットで買い物を楽しむことでアジアへ井戸支援を行います。
	11日(火)	西区	第395回JAFSそうすいの会	12:00 ~ 13:00	JAFS会議室 肥後橋官報ビル5階 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現状について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。
	13日(木)	奈良県	第15回JAFS道楽の会 ウォーキング	10:40 ~ 15:00頃	10:40 近鉄奈良駅集合	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。今回は般若寺から奈良公園まで散策します。 *申込:石原 電話:090-1134-3085
	15日(土)	河内長野	チャリティイベント 映画「セカイイチャイシイ水」上映会	13:00 ~ 15:00	河内長野駅前商店街「上堂本店(醤油蔵跡)」 南海高野線・近鉄河内長野駅より徒歩約4分	1000円(小学生500円)	フィリピン・パナイ島で1990年代に構想から8年余りをかけて建設したパイプライン建設の実話に基づき感動の劇場映画を鑑賞し、生命の水の大切さを共に考えます。参加費の一部はアジアの子ども支援に充当します。
	16日(日)	天王寺区	第3回日本語スピーチコンテスト	14:00 ~ 16:00	クレオ大阪中央・4階セミナーホール	チャリティ参加費 1000円 留学生無料	毎年恒例の日本語スピーチコンテスト。留学生が日本に来て思ったこと、感じたことを率直に話します。日本を見直す絶好の機会ですので、ぜひ聴講にお越しください。ご参加者にも審査いただきますのでよろしくお願ひします。
	16日(日)	交野市	ドリアンプランニング・チャリティ バザール&ステージ IN マナリ村 (大阪府交野市私市3059)	11:00 ~ 15:00	*京阪交野線「私市駅」より京阪バスまたは奈良交通バス「磐船神社前」下車 徒歩10分 *近鉄「生駒駅」より奈良交通バス北田原方面行 終点「北田原」下車 徒歩10分	無料	ドリアンプランニング主催 JAFS後援 多彩なステージとチャリティバザールで楽しい一日をお過ごしください。費用の一部はインドの子ども支援に充てさせていただきます。尚、ステージ出演者30分・バザー出店者各1,000円で募集中です。
	22日(土)	西区	第4期JAFSアジア市民大学 第4回 ミャンマー 軍事クーデター以降のミャンマー国内外の情勢と連帯	14:00 ~ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	ミャンマー出身で京都精華大学で主にミャンマー人の労働問題を研究されているナンミャケーカイン特任准教授がクエーター以降のミャンマー国民の状況や在日のミャンマー人の活動事情について報告し、日本人として何が出来るかを共に考えます。
	23日(日)	枚方市	ひらかたNPOフェスタ2022	10:00 ~ 15:00	サプリ村野 (大阪府枚方市村野西町5-1) 京阪交野線 星ヶ丘駅下車 徒歩約7分/JR学研都市線 河内磐船駅下車。京阪交野線河内森駅へ移動し徒歩1分/京阪交野線 村野駅下車 徒歩7分	入場無料	ひらかた市民活動支援センターに登録している団体が、発表・展示・体験などを通して普段の活動を紹介し、学校や行政、企業や商店、地域の皆さんと交流する、年に一度のイベントです。今年のテーマは、「つづく つながる みんなの想い」3年振りのリアル会場での開催。JAFS枚方地区は展示と子どもたちのふれあいコーナーを実施予定です。
	25日(火)	奈良市	JAFS奈良地区会 総会	18:30 ~ 20:30	奈良八百萬之茶屋 近鉄奈良駅より徒歩約8分	500円	奈良市在住のJAFS会員が集います。JAFS創設者の村上公彦事務局長の卓話を聴いて、JAFS奈良のこれからについて共に語り合います。
29日(土)	平野区	JAFSなにな南地区会主催 第2回 ノアノアフエスタ ノアノアカフェ講演会&パーティ	10:30 ~ 14:30	〒547-0012大阪府平野区長吉六反3-1-32 アークショップノアノア (大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分)	1500円(昼食付)	6月、就労継続支援B型事業所アークショップノアノアにカフェがオープンされ、なにな南地区の活動拠点として様々な活動が行われることになりました。第2回目はベトナムで豊富な社会福祉体験をされた日越大学客員教授 桂良太郎氏による心に沁みこみこみ講話と歌や楽器演奏で心豊かなときを過ごしましょう。	
11月	3日(木)	京都市	kokokaオープンデイ2022 活動紹介ブース出展	10:00 ~ 16:00	kokoka京都市国際交流会館 京都市左京区粟田口鳥居町2-1 一般用駐車場	無料	ボランティア団体等の活動紹介を通して、来場者に社会や世界とのつながりを感じて、様々な取り組みや活動の場を知ってもらいたいイベントです。万国屋台村やステージ、スパイスマーケットもあります。JAFSの活動紹介もします。当日お手伝いいただくボランティア大募集中。
	5日(土)	大阪市	なにな西地区主催チャリティウォーク for ASIA 京都太秦歴史散歩 渡来人楽氏の足跡をたどる	13:00 ~ 16:30	13:00 京都地下鉄東西線太秦天神川駅 3番出口 バス停留所集合 16:30頃 阪急嵐山線松尾大社 解散	未定	朝鮮半島から日本各地に渡来定住し、最先端の技術を生かした土木、農業、養蚕、寺社創建等に貢献した楽氏の足跡を京都太秦に訪ねます。また途中で車折神社・芸能神社にも立ち寄り。参加費の一部をインド児童の教育支援に役立てます。 申込:風早 メール:bfaca103@cwozaq.ne.jp
	8日(火)	西区	第396回JAFSそうすいの会	12:00 ~ 13:00	JAFS会議室 肥後橋官報ビル5階 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現状について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。
	12日(土)	西区	第4期JAFSアジア市民大学 第5回 アジア全般 ロシア・ウクライナ問題からアジアを考える	14:00 ~ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	元朝日新聞アジア総局長・中国総局長の加藤千洋氏が、ウクライナ・ロシア問題を契機に緊張が増した米中間、台中間関係などアジアの現状と今後について話します。
	12日(土)	奈良市	チャリティイベント どんぐりフェスティバル2022	13:00 ~ 15:00	奈良基督教会 (奈良市登大路町45)	500円(小学生200円)	関西在住の留学生と一緒に、どんぐりを使ったクラフト工作をみんなで楽しみます。
	12日(土)	京都市	京都チャリティコンサート ~ピアノ・フルート・バイオリンのアンサンブル~	14:00 ~ 15:30	日本基督教団 洛南教会 京都市南区東九条北丸丸町20 JR京都駅八条口より徒歩5分 ダイワロイネットホテル南側東入ル	前売り 2,000円 当日 2,500円	ピアノ・フルート・バイオリンのアンサンブルによるチャリティコンサートを開催します。協力金によりコロナ禍でさらに厳しい状況におかれているインドとフィリピンの子どもの教育支援に充てさせていただきます。
	19日(土)	貝塚市	ブルーオーシャン作戦③「日本とアジアで海ごみ拾い・プラ狩り!」~海のプラごみを増やさないため1年に1人1kgのプラごみを拾おう~	10:00 ~ 12:30	二色の浜公園 (大阪府貝塚市) 城南島海浜公園つばさ浜 (東京都太田区)	300円 大学生以下 無料	地球上の海を汚しているプラスチックごみ。これ以上増やさないためには、世界全土の国の人々が1年に1人1kgのプラごみを拾うこと、プラごみを出さないリデュースが必要で、目立つ大きなプラごみを拾い、砂に埋もれるプラのカケラを潮干狩りのようにすくい出し、アジアと一緒に海をきれいにしましょう。
	20日(日)	高槻市	第8回アジア・ホーム・パーティ インド・コスモニケタン学園支援 インディアカレー懇談会	12:00 ~ 14:30	クロスバル高槻 (高槻市立総合市民交流センター) 3階食の工房 JR高槻駅南口より徒歩3分	会員予備 1500円 未会員予備 1800円 (昼食・飲み物付)	インド・カルナーカ州にあるコスモニケタン学園は貧困層の子どもたちの教育の場で長年JAFSが支援していますが、コロナ禍で大変な状況にあります。美味しいインドカレーを食べながら、インド人留学生も交えて、現地報告と共に今後の支援について話し合います。
	16日(日)	交野市	ドリアンプランニング・チャリティ バザール&ステージ IN マナリ村 (大阪府交野市私市3059)	11:00 ~ 15:00	*京阪交野線「私市駅」より京阪バスまたは奈良交通バス「磐船神社前」下車 徒歩10分 *近鉄「生駒駅」より奈良交通バス北田原方面行 終点「北田原」下車 徒歩10分	無料	ドリアンプランニング主催 JAFS後援 多彩なステージとチャリティバザールで楽しい一日をお過ごしください。費用の一部はインドの子ども支援に充てさせていただきます。尚、ステージ出演者30分・バザー出店者各1,000円で募集中です。
	26日(土)	平野区	JAFSなにな南地区会主催 第3回 ノアノアフエスタ ノアノアカフェ講演会&パーティ	10:30 ~ 14:30	〒547-0012大阪府平野区長吉六反3-1-32 アークショップノアノア (大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分)	1500円(昼食付)	6月に就労継続支援B型事業所アークショップノアノアにカフェがオープンされ、なにな南地区の活動拠点として活動が行われることになりました。第3回目は著名な心理カウンセラー 田中正晃氏によるストレスをためないメンタルコントロールのお話と野村真希さんによる楽しい歌で心豊かなときを過ごしましょう。
26日(土)	西区	第4期JAFSアジア市民大学 第6回 中東・中央アジア 流動化するユーラシア-東欧と南アジア	14:00 ~ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	アジア経済研究所・名誉研究員の清水 学氏が、激動するユーラシアを理解し展望するために欠かせない東欧と南アジアの相互交流の歴史について詳しく解説し今後の展望について話します。	
27日(日)	枚方市	第22回ひらかた多文化フェスティバル	10:00 ~ 15:00	ニッパーク岡東中央 京阪枚方市駅直ぐ(枚方市役所前の公園)	入場無料	ふれあい、世界の文化をつなげよう~ひらかた多文化フェスティバルは、さまざまな文化や習慣に出会い、ふれあうことにより、お互いの信頼、世界の信頼が深まることを願って開催されます。JAFSネパールへのかけ橋がネパールの学校建設支援のチャリティ活動のために参加します。当日のボランティア募集中。	
12月	2日(金)	兵庫県	アジアフレンドシップ国際基金 ゴルフコンペ	9:00 キャディマスター 室前集合	ABCゴルフ倶楽部 〒673-1313 兵庫県加東市英福933-20	21,440円(プレー代・お茶代・景品代・国際基金5千円)	アジアフレンドシップ国際基金のためのゴルフコンペです。*アジアフレンドシップ国際基金とは、JAFSの理念実現を目指して、アジアのネットワーク活動の強化を図るための基金です。
	3日(土)	京都市	京都地区主催チャリティウォーク 平安の歴史が息づくまち 京都・宇治を歩こう	13:00 ~ 16:00頃	13:00 JR宇治駅1階集合(改札口は2階です)*京阪電車の駅からは宇治橋を渡って歩いて約10分です。	1000円+平等院拝観料600円、鳳凰堂内部拝観300円	宇治茶のふるさと、二つの世界遺産を持つ歴史ある古都。地元ガイドの詳しい説明を聞きながら、平等院周辺をじっくり鑑賞します。*定員:30名(先着順) *持ち物:飲み物、帽子、雨具、歩きやすい服装・靴、マスク着用 *小荷物決行
	3日(土)	西区	第4期JAFSアジア市民大学 第7回 インド 日本文化の中のインド	14:00 ~ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	JAFS会員のインド愛好家が集うパーラト会を主宰する眞正憲氏は、インドの日本人学校に勤務したことがきっかけでインドの歴史・文化・生活について日本との関係を研究しています。日本文化の中に溶け込んだインド文化について紹介いたします。
	3日(土)	市川市	JAFS日生地区会主催 人生を楽しむ in 日生 日生活性化プロジェクト	11:00 ~ 16:00	岡山県備前市日生町日生2219-4 (元パール美容室)	無料	多彩なステージとチャリティバザールで楽しい一日をお過ごしください。費用の一部はインドの子ども支援に充てさせていただきます。尚、ステージ出演者30分・バザー出店者各1,000円で募集中です。
	10日(土)	天王寺区	第7回 アジアン・チャリティ・フェスティバル	10:30 ~ 17:00	大阪国際交流センター2階大会議室さくら、3階フランダースホール他 (大阪メトロ谷町線・千日前線 谷町九丁目5番出口より600m、近鉄 大阪上本町14番出口より400m)	チャリティ前売券 1000円 (当日券1200円)	在日29年のパンダデジュ人ジャケルさんと盲目のカウンセラー西亀真さんの対談、世界の国歌を歌うソプラノ歌手鶴澤美枝子さん等多彩な舞台とアジア雑貨などのお店を楽しみながら、在関西のアジア系市民・留学生とゲームなど通じて広く交流します。
	13日(火)	西区	第397回JAFSそうすいの会	12:00 ~ 13:00	JAFS会議室 (肥後橋官報ビル5階、大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ)	500円	最近のアジアの現状についてスタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながら、現地への井戸支援を行います。
	16日(日)	交野市	ドリアンプランニング・チャリティ バザール&ステージ IN マナリ村 (大阪府交野市私市3059)	11:00 ~ 15:00	*京阪交野線「私市駅」より京阪バスまたは奈良交通バス「磐船神社前」下車 徒歩10分 *近鉄「生駒駅」より奈良交通バス北田原方面行 終点「北田原」下車 徒歩10分	無料	ドリアンプランニング主催 JAFS後援 多彩なステージとチャリティバザールで楽しい一日をお過ごしください。費用の一部はインドの子ども支援に充てさせていただきます。尚、ステージ出演者30分・バザー出店者各1,000円で募集中です。
	24日(土)	平野区	JAFSなにな南地区会主催 第5回 ノアノアフエスタ ノアノアカフェ講演会&パーティ	10:30 ~ 14:30	〒547-0012大阪府平野区長吉六反3-1-32 アークショップノアノア (大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分)	1500円(昼食付)	6月に就労継続支援B型事業所アークショップノアノアにカフェがオープンされ、なにな南地区の活動拠点として様々な活動が行われることになりました。第5回目はクリスマスにふさわしいお話と楽しいアトラクションで心豊かなときを過ごしましょう。
	24日(土)	天王寺区	第7回 アジアン・チャリティ・フェスティバル	10:30 ~ 17:00	大阪国際交流センター2階大会議室さくら、3階フランダースホール他 (大阪メトロ谷町線・千日前線 谷町九丁目5番出口より600m、近鉄 大阪上本町14番出口より400m)	チャリティ前売券 1000円 (当日券1200円)	在日29年のパンダデジュ人ジャケルさんと盲目のカウンセラー西亀真さんの対談、世界の国歌を歌うソプラノ歌手鶴澤美枝子さん等多彩な舞台とアジア雑貨などのお店を楽しみながら、在関西のアジア系市民・留学生とゲームなど通じて広く交流します。

● パーラト会(インド会) 第3火曜日 18:30~20:00 参加費 500円 (インドの歴史、文化を学びます) 会員は割引特典があります。

※要予約 TEL06-6444-0587 担当:鳥居 京子 E-mail:kyouko.power31810@gmail.com 場所:アジア協会アジア友の会会議室

● 緑とふれあう農園の作業日
 <場所> JR星田駅より徒歩8分 10/8(土)、10/22(土)、11/12(土)、11/26(土) 午前8時~11時
 12/10(土)、12/24(土)、1/14(土)、1/28(土)、2/11(土)、2/25(土) 午前9時~12時
 <内容> 季節の野菜を植えて育てます。緑を育てる楽しさを共に分かち合いましょ! はじめて参加される方は事前連絡ください。
 ブログをご覧ください。blog.goo.ne.jp/midori-hureai

♥「もったいない」のきもちを社会貢献へ♥
 JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。
 ○書き損じハガキ、切手(未使用・記念切手可)、外貨コイン: 事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。
 ○服、アクセサリ、カバン等: 買ったけど敬い使っていない、でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ 06-6444-0587 JAFS事務局

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。(敬称略・50音順)
2022年6月1日～8月31日

- 社員会員
後藤正行/田島高広/山本恵章
- 維持会員
山本幸雄/雅賀明美/川上徹/澁谷香織/中江優子
- 賛助会員
古林由希子/松崎壽子/浅田舞
- 団体会員
寝屋川教会賛助会/JAFS歩く会
- 法人賛助会員
(株)ユイメール
- 里親会員
勝又厚

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。 (敬称略・50音順)
2022年6月1日～8月31日
なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

- 社員会費
市川晃/大麻豊/奥田順/柏木道子/北垣俊一/暮部恵子/金剛一智/坂口久代/崎野哲史/佐藤正隆/佐野光彦/實清隆/芝野照久/清水茂貴/白方誠彌/末広真樹子/田島高広/寺西浩章/鳥居京子/平山隆史/福岡名津子/福岡好嗣/福澤邦治/藤原道子/船戸康夫/松川一人/南野紀美子/宮川眞一/山田啓輔/山本恵章/吉田俊朗/芳野徳洋/米田明正/渡辺治彦
- 維持会費
赤野孝一/天野澄子/新井隆郎/荒川雄毅/池谷和博/板谷静夫・博子/一瀬由起子/伊藤雅子/上田裕美/魚森清恵/江川美知子/大木洋子/大須賀不出子/大槻誠子/大山愛子/置田義男/尾崎篤子/小田辺朋子/風早正夫
- 金文字子/川崎献一/川崎千足/川崎なおみ/川副竹善/岸久子/桐間郁子/日下千代子/熊代琢/栗山拓/小泉好子/坂上やよひ/佐藤明吉/佐藤恵美子/佐藤正明/塩谷真人/四國うどん讃岐路/篠塚達朗/島田恒/清水泰尚/志茂主備/正法地真理子/杉本牧子/鈴木浩/関谷康子/高橋町子/竹中有香子/巽恵康/田仲拓二/田中守/丹道純子/坪倉幸弘/出野聡司/寺山正道/苗村登美子/中路信子/中谷誠/中西正喜/西尾恵美子/西村清美/西村秀明/橋本恵/濱崎佳尚/日阪栄子/久富雅之/平川輝子/廣田恵美/深田陽一/深谷春男/古本靖久/堀内眞司/本田伸一/前野芳子/増田愛子/三浦寿子/三雲孝/水野礼子/溝渚つ躬/美濃岳/三宅律子/向出純子/村田恭仁子/森わか子/森山涼

- ナミ子/倅田智子/関西ラオス友好協会/久保俊幸/佐藤文昭/澤井かずおき/設楽宏幸/高瀬稔彦/中須雅治/長瀬護/NOZAKI(株)/マモッコ大阪/株)ミ・ムンド/山地尚枝/吉田幸子/米田明正
- 教育支援寄付
チャリティショップKANAU/中野公平
- フィリピン障害者支援
末永雅典
- フィリピン・ストリートチルドレン支援
JAFS京都地区会
- フィリピン台風被災者支援
和田義次
- フレンドシップ基金寄付
旅は道連れ会
- ブルーオーシャンプロジェクト
天野紀/井手康平/上山佳彦/内田実紗/枝澤圭祐/株)East Fitness Japan/OSGコーポレーション青樹会/大本和子/岡本佳子/川崎隆二/川本裕子/北山みな美/倉本みゆき/重田優子/杉本牧子/鈴木一充/株)デュアルエデュケーション/福澤麻穂/法花敏郎/舛屋彩子/深山拓也/村田昌子/矢賀繁之/山下泰之/山田陽斗/渡辺治彦
- フレンドシップ国際基金
駒野秀典/阪口和秀/角之倉久志/出口貴之/永島治典/中谷裕之/西田貞之/橋本隆/法花敏郎/前峠正義/松本督/毛利吉男/山本宏昭
- 新型コロナウイルス緊急募金・災害等罹災者支援・ウクライナ緊急支援

- 子/山本幸雄/横手美知代/吉田京子/和田秀一/和田義次
- 団体会費
JAFS歩く会/寝屋川教会賛助会/社はたらく馬牧場
- 法人会費
イオングループ労働組合連合会/NTT労働組合 関西総支部/株)カステロ/株)かんぼう/株)京進/株)クレコス/清教学園/ソフトキューブ/株)デュアルエデュケーション/NanoZonJapanホールディングス/株)大阪府連合会/寝屋川教会/パナソニックホールディングス/株)ユイメール/ユニチカユニオン

- 里親会費
明見勝好/浅香真理子/荒川奈秀子/池上正子/石神誠/石原基義/一瀬由起子/井上修二・晶子/今井田尚久/上田慎子/大久保宏子/大水光美/岡部雅子/鹿島恵美/柏木道子/鎌田勝江/川崎隆二/北原祐司/木村征代/倉野茂樹/古賀旭/後藤雅子/今野裕章/佐藤道代/塩谷真人/塩月裕朗/清水泰尚/下村蓮実/白石敦士/高橋恵/高山恵理子/田中和子/田中誠一/対馬龍祐/坪倉幸弘/寺山正道/西優子/西澤純/西山美菜子・千晶・敦記/細恵理子/林美美子/ピグマリオン学院奈良教室/久富雅之/檜原敏之/平井静/平瀬美智子/洋野町国際交流協会/福岡名津子/本田伸一/宮川ヒサ/三宅詩佳/武藤英利矢/森恵美子/森下正志/山尾修/山川清/山中康/横手美知代/吉田幸子/米田典子/渡部司
- コスモニケタン指定寄付
大本靖子
- チャイルドアカデミー指定寄付

- JAFS京都地区会/ドリアンプランニング
- 一般寄付
熱田親憲/市川晃/インド料理店モダカ/大久保洋子/兼松利木雄/北島昭二/暮部恵子/柴村壽子/齊木寛斗/坂口久代/櫻井紘哉/佐藤正隆/設楽宏幸/實清隆/篠原勝弘/菅原靖広/ソフトバンクつながる募金/チャリティショップKAZAC/寺西浩章/富松英二/鳥居建十/西田貞之/福澤邦治/藤原正昭/眞砂哲志/宮川眞一/宮野谷篤/村上公彦/森本榮三/柳井一朗/大和キリスト教会支援委員会/山本宏昭/吉田俊朗/米田明正/渡辺治彦

- 井戸指定寄付(水支援)
姥名健仁+加奈子/角英樹/青木寛斗/米田明正
- 井戸積み立て
岡部雅子/JAFSぞうすいの会/ゆりかご幼稚園
- 井戸建設支援
○カンボジア
石原基義/イオングループ労働組合連合会4基
- ネパール
大阪府立天王寺高等学校マニ/北田邦子/長知子
- フィリピン
京セラ労働組合本部5基
- アジア・ネットワーク奨学会会費
上野孝一/村上公彦
- アジア・フレンドシップ夢基金寄付
JAFS歩く会/株)カステロ/カラバツシユテニスクラブ/谷口和子/ドリ

- アンプランニング/夢基金支援会
- アジア・子ども支援寄付
大石みどり
- アジア植林支援寄付
岡本朋子(スリランカ)
- インドHIV子どもと家族支援会費
JAFSのちの会 枚方/苗村登美子
- インドサトウキビプロジェクト
芳賀直美
- インド職業訓練
中易昇太

- スリランカ・サルボダヤ支援会費
小澤勇/船戸康夫
- スリランカ指定寄付
船戸康夫/村上公彦
- ネパール・バイオガス寄付
設楽宏幸
- ネパール・ピトゥリ基金寄付
熱田典子/島崎亨枝/マツララジャンマン
- ネパール・ピトゥリ支援
大谷英一/大谷臣子/小川幸子/倉光和之/小松朱美/前田美津代/前田豊/宮本博幸/吉川照代
- ネパール栄養改善教育支援
東代清隆/渡邊瑠璃子/匿名
福永有花/横田美智子
- ラオス学生寮指定寄付
大野嘉宏/大本和子/岡本佳子/加芝

大阪マラソン2023 JAFSチャリティランナーに応援&支援を！！

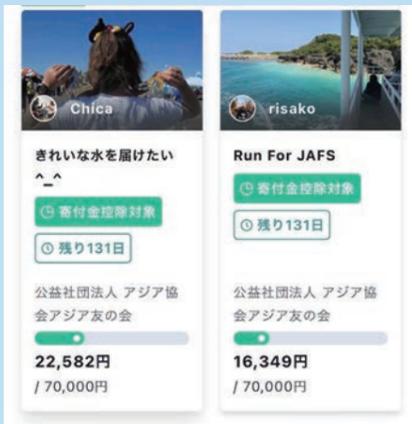
大阪マラソン2023(2023年2月26日(日)開催)のチャリティパートナーにJAFSが選ばれました！栄えある初めての選出です。「走ってつなげて届ける安全な水」をテーマに、12人のJAFSチャリティランナーが走ります。チャリティランナーは、JAFSの活動趣旨に賛同してくださったボランティアの皆さんです。このチャリティランナーが「JAFS」の名前を背負って大会当日走るためには、2023年1月24日までに、各ランナーにつき7万円以上の資金調達が必要で、皆さまのあたたかいご支援により、12名全員に走っていただき、皆で応援に行きましょう！ご協力をお願いいたします。

JAFSチャリティランナーへのご支援方法：

- ①<https://osaka-marathon.syncable.biz/campaign/2807>、もしくは下記QRコードよりアクセスする。



- ②アクセス先ページの下部にあるJAFSチャリティランナー一覧(右記)より、ランナーを選択し寄付する。
※オンラインでの対応が難しい方は、JAFS事務局(熱田・坂口)までお知らせください。



災害対応チームメンバー募集！！

JAFSの主な活動に災害地の罹災者支援活動があります。災害が起きた時に緊急支援対応できる「災害対応チーム」のメンバーを募集します。元自衛官、医療従事者の方をはじめ、トラックの運転、炊き出し経験有など、JAFSの活動に参加くださる方、JAFS事務局(熱田)までご一報ください。

日本の国費留学生として来日

私はインド、オデイシャー州の出身です。今は京都にある大谷大学仏教学科の教員を務めています。一人の研究科として、また教育者として、インド文化・仏教学の分野において日本で活動しています。

来日したのは1996年でした。当時、私はインドのデリー大学大学院で仏教を勉強していました。

そんなある日、日本の当時の文部省による国費留学の奨学金の募集が目にとまり、応募しました。それに合格できて、仏教を学ぶために来日することになりました。

皆さんご存知のように、仏教はインドで生まれましたが、そのインドでは、様々な理由により、13世紀頃にはほぼ滅亡に近い状態になっていました。ですので、日本人の生活の中に様々な形で取り込まれている仏教の実践的な側面を経験することができたり、仏教の研究に世界的な業績を残している日本、とりわけ大谷大学で学ぶことが

仏教の教育研究を通し日印交流を目指す



ショバ・ラニ・ダシユさん (インド)

その後、伝統的な仏教を学びたいという私の要望に応えていただき、仏教の教育研究に長い歴史を持つ大谷大学で、本格的に仏教の勉強をさせていただきました。

そして、大谷大学で博士の学位を得た後、同大学の教員として勤めました。世界的な研究者たちが教鞭を執

できたりしたことを、とても光栄に思います。

大谷大学で博士の学位取得

来日したときにはまだ日本語ができなかったため、まずは大阪外国語大学で、6カ月という短期間ではありましたが、集中的に日本語を学びました。

る母校である大谷大学で、研究者として、教育者として仏教に触れることができるのが幸せです。

日本では、神道や仏教の教えが根底にあるためか、基本的なところではインドの宗教的な考えとさほど違いがありません。ですから、日本に来て生活の上のカルチャーショックは色々あった

ものの、その文化に親しみを感じました。

また、どのような仕事であっても、自分の仕事に誇りを持ち、尊敬し、一生懸命に頑張っている日本人の姿は、かっこいいと思います。

励みになったインドの振興賞

私は、日本政府から奨学金をいただいたことや、大谷大学で学べたことのおかげで今の自分があると思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

2022年3月29日に、大谷大学が、インド政府による「インド文化交流評議会 仏教学振興賞」の第1回受賞者となりました。国籍や人種にかかわらず、仏教学の振興に顕著な功績のあった個人・団体を表彰することが目的で、インド政府によって構成される審査委員会が全世界から毎年1件のみ授与する国際的な賞です。

大谷大学で教員を務めている私には、これは大きな励みになりました。教育研究といった小さい範囲の中ではありませんが、日印交流のために一杯これからも頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



第1回「仏教学振興賞」授賞式での記念撮影。前列中央の額を持つ人が駐日インド大使。前列右から4人目が在大阪・神戸インド総領事。前列左から2人目がショバ・ラニ・ダシユさん

活躍するアジア

り、太陽のパワーを実感します。約2時間でチーズケーキもできます。

太陽光発電は、発電所からの送電インフラが無い地域でも、電気を使う個別の場所で独立して電気を作って使うことができ、またランニングコストは基本的に不要で、途上国の非都市部にぴったりだと思っています。ですから太陽エネルギーに恵まれている赤道近くのアジアの国々の子どもたちに、その素晴らしさを感じてもらいたく、「おひさまクッキング」をぜひ一緒にやってみたいものだと思います。

天候により発電量が変動する太陽光発電は、電力会社にとって電力需給の調整に苦労があることは、先日テレビで放映された現場の様子を見て実感しましたが、人工知能AIの導入も始まりつつあるようです。太陽を有効に使わないのはもったいないと認識を共有し、使う方向に種々の課題をクリアするべく社会が動くことに期待します。

なお、わが家で太陽光発電を始めたのは、余剰電力買取制度の初年度2010年。売電収入により、初期設置費用は10数年で回収できた計算です。今は買取価格が下がっていますが、設置費用も下がり導入しやすく、補助金がある自治体もありますので、関心のある方は調べてみられてはいかがでしょうか。(JAFSスタッフ 川本 裕子)

環境コラム

おひさまパワー

家でどれくらい電気を使ってるの?と尋ねられ、「太陽光発電してるから、その分は実質電気は使っていない」と答えたのを機に、いったいわが家では実際のところ、消費電力のどれくらいを太陽エネルギーで賄っているのだろうか、と計算してみました。太陽光発電した電気から自家消費分を除いた余剰電力を電力会社に売った量は、昨年7月から今年6月までの1年間で計2,774kWh。夜間および悪天候の昼間に電力会社から買った量は3,075kWh。自家消費量が計れないので考慮から外しても、差し引き9割は太陽で作った電気です生活している計算になります。コロナで家に居る時間が増えている今でなければ、全て太陽で賄っているかもしれず惜しく感じます。

太陽光発電と蓄電池を備えた住宅のCMで、俳優の阿部寛さんが「太陽をムダにしない」と言っていますが、本当にそう実感します。わが家に蓄電池はありませんが、お天気の昼間に家で過ごしていると、クーラーも冷蔵庫も、太陽の力で動いているんだな～と実感し、ただ太陽が屋根に当たっているだけではもったいないなと思っています。

以前環境学習に関わる仕事をしていた際、「おひさまクッキング」講座を毎夏に開催していました。手作りしたソーラークッカーで、ゆで卵を作るイベント。太陽の下、1時間ほどでゆで卵にな

書籍「新聞記者のち財界人」

JAFS前会長の萩尾千里さんの著書「新聞記者のち財界人／リーダーたちと考えた国の行方」(かもがわ出版、2,000円+税)が出版されました。JAFSやパندان水道パイプラインについても触れられています。ご関心のある方は書店にてお求めください。

編集後記

映画「戦場のピアニスト」(ポランスキー監督)はナチスのポーランド進攻(1939年)を生き延びた実在のピアニストの物語。冒頭、シヨパンの夜想曲の切ない響きがロシアのウクライナ進攻と重なります。(敏)

ウクライナの戦禍や物価高騰、異常気象に加えてコロナ感染も再拡大。身の回りでも、東京の孫や故郷の兄一家が罹患した。先の見えない異変続きに慣らされたのか、「首相感染」の報にも驚きを感じないこの夏。(誓)

生 涯初の避暑で岩手県の八幡平に1週間滞在した。八幡平は勿論ホテル近くの森のウォーキングなどで、緑の美しさとおいしい空気を満喫。青森県の奥入瀬にも足を延ばした。知らなかった日本の自然美を堪能した。(和)

9月開講の第4期アジア市民大学は、多文化共生社会にふさわしく外国人講師が4名。大阪在住のウクライナ避難民への支援も始まるなど、まさに世界の課題に国境はなく、共に取り組む時代になったと実感する。(裕)

朝 井まかて著『ボタニカ』を読みました。植物学者・牧野富太郎の伝記小説。学問に利を求めず、地位も追わず、無心に草木と遊び、知を愛す。世界中がかくありたい生き方です。(黒)



2021年12月にフィリピンを襲った台風ライで壊れた家々を、職人から指導を受けたボランティアチームが修繕した。4月15日、パナイ島、アンティケ州パンダン。6ページに記事

表紙の写真 経済危機に見舞われているスリランカで、差し入れられたビスケットに殺到する人々。8月22日、西部州コロンボのガソリンスタンド。4と6ページに特集記事



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人々を支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2022年10月 151号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫

川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



Accountability Self Check 2012



HPもご覧ください